

学校賞コメント

● 大妻中野中学校・高等学校（東京都）

大妻中野は今、グローバル社会で自分らしく活躍できる女性の育成を目指しています。学校ぐるみでグローバル化に取り組む中でプランの読書感想文コンクールとめぐりあいました。そこで、思い切ってこれまで日本の文豪による著作限定で行っていた校内読書感想文コンクールを、こちらのコンクールへの参加に切り替えたのです。生徒たちの目がより広い世界へと向いてくれれば、という半ば挑戦的な試みでした。校内の反応は想像以上に大きく、海外留学に応募する生徒や国際関係の進路を希望する生徒が明らかに増加しています。「まず世界で起きていることを自分自身が知らなくては」と思う気持ちが芽生えてきたのでしょうか。コンクールで出会った1冊をきっかけに、生徒たちの目が、心が、勢いよく世界へ向かったこと。これは大きな喜びです。次は生徒たち自身が発信する側に成長し、世界を動かすエネルギーを生み出して欲しい、そう私たちは願っています。

● 関西大倉中学校（大阪府）

このたびは学校賞を頂戴し、大変うれしく思っております。課題図書を読んで世界の少女たちが置かれている現状を知り、生徒たちの世界観が広がるきっかけになればと考え、コンクールに参加させていただきました。貧困・暴力・望まない結婚など、同年代の少女たちが女性という理由でさまざまな権利を剥奪されている状況に、生徒たちは衝撃を受けたようです。しかし、一方で、逆境の中をたくましく生き抜く少女たちの姿に、勇気づけられもしました。大切に育てられたことを家族に感謝する生徒、勉強できる喜びを噛みしめる生徒、将来の夢を自由に思い描けるすばらしさに気づいた生徒。多くの生徒にとって、このコンクールは自分を顧みる良い機会となりました。今後、生徒たちが国際社会に対する関心を高め、広い視野で多角的に考察できる人間に成長することを願っております。

● 関西創価中学校（大阪府）

昨年、スポンサーシップがきっかけで、コンクールを知り、生徒たちに、もっと世界の現状を知ってほしいと応募しました。そして、一度きりでなく、成長にあわせて、学び、考え続けていきたいとの思いで今年度の応募を決めました。今年は、学年行事である広島への平和研修旅行を前に、オバマ大統領のスピーチを学習し、現地で被爆体験を伺い、世界や平和ということについて、昨年とは、違った思いで課題に取り組んでいたようです。また、映画「世界の果ての通学路」やマララさんの映像を見たり、課題図書を読む中で、自分たちにできることは何か、平和といっても、大きなことではなく、目の前の一人を笑顔にすることだとの思いを一人ひとりが強くしたように思います。これからも、身近な足元から世界のことを考え、「他人の不幸の上に自分の幸福を築くことはしない。」との思いを心の真ん中において行動し続けられる世界市民に育ってほしいと願っています。

● 広島女学院中学高等学校（広島県）

当コンクールに応募した理由の一つとして、課題図書と本校の教育内容のマッチングをあげることができます。本校はSGH（スーパーグローバルハイスクール）に指定されたことを受け、これまで以上にグローバル教育に力を入れる運びとなりました。「平和」や世界の抱える課題について考える機会を日頃から多く設けています。ですから今回の課題図書も関心を持って読めるだろうという期待がありました。日々学びを修めているとはいえ、まだまだ知らないことばかり。今回、課題図書を読むことによって、生徒たちに新しい視点をもって世界に目をむけてほしいと思いました。また、世界だけでなく、感想文を書く過程において自分自身の在り方や考えにも向き合ってもらいたいとも思いました。応募期間が夏休み明けということも良かったです。じっくり時間をかけて本を読み、思考を深め、世界をとらえ直すという得がたい経験を高二という時期にできたことに感謝しています。

● 宮城学院中学校・高等学校（宮城県）

本校は年間のカリキュラムとして「グローバルスタディーズ（国際理解教育）」を位置づけて3年目となりました。その取り組みの一つとしてプラン・インターナショナルさんのご協力をいただきながら、世界の女の子たちがかかえている問題やマララさんの活動について学んできました。その学びを確かな財産とするために読書感想文コンクールに中学校全体として参加させていただきました。生徒は日本の女の子たちが置かれている状況との違いに驚きながらも一生懸命にこれからの目指す未来について考えをまとめてくれました。生徒には読書感想文にまとめることで得たものを土台としてさらに興味関心を持ち探究し続け、特に弱い立場にある人に寄り添って考えることができる女性になって欲しいと思います。

● 弥富市立弥富北中学校（愛知県）

『夢みる力～自分と世界をつなぐ～』というテーマで、4月より総合的な学習を進めてきました。「世界一大きな授業」や「貿易ゲーム」を通して世界の現状に目を向けたり、世界とのつながりや課題、SDGsについて学び、考えたりしてきました。読書感想文コンクールに参加することで、女の子の教育の問題について知り、私たちのあたりまえが世界のあたりまえでないことを実感した生徒が多くいました。また、マララさんの自ら世界のために立ち上がる強さに感銘を受け、自分も世界のために役立てることはないかと考え、フェアトレードやボランティアについて調べた生徒もいます。2学期からは、学年で持続可能な国際協力をしようと、学級委員が呼びかけて、プラン・インターナショナル・ジャパンの募金活動や古本・古CDなどを集めるボランティア活動を進めています。生徒が地球市民として、自分の未来や地球の未来に夢をもち、たくましく生きていってくれること願っています。

● 豊島岡女子学園中学校・高等学校（東京都）

この度は「学校賞」をいただき、誠にありがとうございます。生徒に夏休みの読書を単に読書で終わらせるのではなく、そこから何かを考えるきっかけになればと思い、今回プラン・インターナショナルの読書感想文コンクールに応募させていただきました。普段の読書とは異なり、自分の読みたい本、自分の好きな作家の作品などではない本を手にするということで、初めは取り組みにくいところもあったようですが、日常ではなかなか自分から進んで考えられないような問題に触れ、生徒たちにとってもとても有意義なものになったと感じています。

本校は女子校ということもあり、女性ならではの国際的・社会的な問題というものは、これから社会へと出ていく生徒たちにとっても避けては通ることのできない課題だと思っています。今回のこのコンクールを通じて得た経験が、将来子供たちにとって、単なる読書にとどまらないかけがえのないものとなることを期待しています。